

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		スターキッズ					公表日	2026年3月23日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童一人あたり4㎡の東京都が指定した基準を大きく満たし、指導室は90.09㎡となっている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童10名に対して職員2名以上という都の基準を満たした人数を配置している。また、送迎時間を短縮する事でより多くの職員で児童の支援にあたれるよう、保護者の方には自主通所の協力を促している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		入口から教室内への導線について、段差はなくバギーや車いす等の入室もスムーズに行える環境になっている。	トイレの入り口に段差がある為、児童が出入りする際に転倒などの事故が起こらないよう目視、声掛けなどの配慮を行っている。必要に応じて段を置いて段差の幅を狭くするなどの対応も行っていく必要がある。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃と消毒を行っている。ロッカー等児童が利用するものを手の届きやすい場所に設置している。コーナーガードやマットを設置することで、運動を安全に行えるようにしている。また、緊急時に備えてAEDの設置もしており、職員全員がAEDの使用方法について研修を受けている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		相談室等を利用し、着替えやクールダウンができるようになっている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日のミーティングの中で必要に応じて業務内容への取り組み方や業務の割り振りについても話し合い、改善に繋げている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に一度実施しているアンケートの内容を参考に、児童や保護者への対応について見直しを行い、改善案を考えている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングで児童の様子等の意見交換を行い、専門的な支援が行えるよう療育内容を決めている。	事前に職員間で話し合いを行えているときと行えていないときがある為、療育前や後に時間を設けることで運動や静かな活動での療育内容について職員間で考える時間を設けていく。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者評価については未実施だが、姉妹教室の職員も療育に参加することで意見交換を行い、改善に努めている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月に1回の職員ミーティングで研修の時間を設けている。また、都や区が主催する研修にも積極的に参加している。			
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域に応じた支援プログラムを立てており、ホームページ上で公表もしている。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		概ね半年に1回必ず保護者とモニタリングを行って様子の共有等をして要望に応じた内容を作成している。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当者会議等を行い、教室の職員全員で児童の様子について意見交換することで課題や今後の目標を検討することが出来ている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		HUG（アプリ）で全職員が計画書を確認することができる。また、サービス提供を記載する際も、支援計画書がすぐに確認できる仕様になっている為、計画や課題に沿った内容を提供し、記録を残している。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		5領域に応じたアセスメントシートを利用することで支援に生かしている。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画にて本人支援、家族支援、移行支援等を踏まえて、具体的な内容を記載している。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		ミーティングにて療育の流れや留意点を確認しプログラムを立案している。			

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	祝日や長期休暇についてお出かけや姉妹教室との交流を計画し実施している。繰り返し取り組むべき内容も、道具やルールに変化を付ける事で児童が興味を持って行える様工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	基本的には集団で活動を行っているが個々の課題や目指したい目標に沿って個別の活動を計画し実施をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援内容の目標をミーティングで決め、役割分担について確認することができる。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	重要な内容について児童の引き渡しが終了した後には共有する時間を設けている。改善点等を共有することで同じ問題が起きないようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	HUGにてサービス提供記録を作成しており、児童の様子や支援の検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	児童の様子も踏まえて3か月～6か月に1回モニタリングを実施し個別支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	季節行事や地域行事等と関連させることで様々な活動を組み合わせ提供している。	地域行事等への参加は年に数回と限られている為、土曜・祝日・長期休暇を利用してより多く地域交流の機会が提供できるように計画していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	○	児童同士で解決する話し合いの場や質問タイムなどを設けることで発信の機会を増やし、自己決定につなげている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児童発達支援管理責任者を中心に、該当児童についてよく理解した職員が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	送迎時に、放課後クラブや学校の職員とコミュニケーションを取り、児童の情報を聞くようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	保護者を通じて年間行事予定や下校時刻の確認を行っている。また送迎時は10分前到着の連絡を行い、連絡調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	姉妹教室と連携し未就学児の頃の様子や対応の仕方についての情報共有を行っている。	幼保と放課後等デイサービスとの間で直接の連携は行っていない為、必要に応じて連携を取っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		該当児童なし。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	関係機関として必要に応じて連携を図るだけでなく、地域の児童発達支援センターが主催する研修の受講も行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	夏祭りやクリスマスコンサートなど地域の方も参加できるイベントを実施している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	区が主催しているネットワーク会議に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	毎回療育後に保護者へ直接今日の様子についてのフィードバックを行ったり、記録を作成しHUG（アプリ）で公開することで共通理解を図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	SNSや保護者へのフィードバック時、モニタリングなどの際に自宅での関わり方や支援について発信や提案を行っている。	大々的にペアレントトレーニングは実施できていない。保護者のニーズに応じて実施を検討する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	見学时や契約時に説明をすると共に教室室内へ掲示をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	記録に対し、保護者からコメントができるようになってきている。フィードバック時やモニタリング時にもサービス提供記録について触れている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	保護者に周知すると共に内容の確認をしていたり、同意のサインをいただいている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの申し出に応じて、相談の場を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年に数回保護者会を開催している。保護者会後に教室毎に集まる時間を設けて、意見交換の機会につなげている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった際には職員間で情報を共有し迅速かつ適切に対応すると共に上席への報告も行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎週水曜日にSNSを更新し、療育中の様子を公開すると共にHUGでも発信をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		写真の掲載については契約時に同意を得ている。個人情報については鍵付きの書庫で管理をしている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々の発達に応じてハンドサインや視覚的にも分かり易い掲示物を用意し、適切な意思疎通が図れるよう、配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		夏祭りやクリスマスコンサートなど、季節に応じたイベントを地域の学校を借りて実施し、地域住民への呼びかけを行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、周知するだけでなく、必要に応じて職員研修も行っている。	利用者への周知が不十分な為、契約時にお伝えするだけでなくモニタリングや面談時にも伝えていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、年に2回以上の避難訓練を計画的に実施している。	送迎時や児童一人での自主通所時など様々な場合を想定した訓練を実施することで、災害時の対応がスムーズになるようにしておく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時に服薬や持病の確認を行っている。病院受診時や服薬内容に変更があった場合は保護者から情報提供をしていただいている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にアレルギーの有無を確認している。アレルギーのある児童については各自おやつを持参していただく旨の同意を得ている。また、調理活動を行う際には事前に個別の確認を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		マニュアルとして安全計画を作成している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時にマチコミの登録をしていただくことで、HUGやマチコミを通じて緊急時に連絡が行き届くようになっている。	緊急時の児童の保護者への引き渡については訓練が十分に行えていない為、年間計画に組み込むと共に保護者の協力を得て、訓練の実施に努めていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが起きた場合は記録を残し、教室内での共有を行っている。再発防止に向けてヒヤリハット時の環境や行動などの原因を振り返り、職員の動きや児童の動線になどの見直しを図っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		教室の代表が必ず虐待防止研修を受けており、研修後に教室でのミーティングや全体ミーティングの際に周知するようにしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に説明をする共に書面にサインをしていただくことで同意を得ている。また個別支援計画にもその旨を記載している。		